

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書②

岐阜県立池田高等学校 学校番号 20

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <p>① 身につけた知識やスキルを活かして、自立(自律)し、自分で考え、困難に立ち向かう努力ができる生徒</p> <p>② 個性や知性を武器に、環境の変化を恐れず、自信をもって挑戦できる生徒</p> <p>③ ユネスコスクールの理念を誇りに思い、持続可能な地域・社会・未来の実現に向けて、多様な人々と協働しながら、地域のリーダーとして行動できる生徒</p>	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <p>① 生徒の能力や学習状況等に応じて常に工夫改善し、生徒自らが学力の定着と向上を図っていく探究的な授業を実施します。</p> <p>② 培った知識・スキルを活かし、主体・協働的な活動を通じて、キャリアステージにつなげる「総合的な探究の時間」を実施します。</p> <p>② ユネスコスクールとしてESDを推進し、グローバルな視点を持ちながら、地域と協働する実践的な探究活動を実施します。</p>	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <p>① 将来の夢や目標に向け、自分の基礎を築き、自分の強みを伸ばすために、探究的な学びに挑戦したい生徒</p> <p>② 自身をしっかりと見つめ、さらに多様な他者との対話を通して、考えを広め深める体験がしたい生徒</p> <p>③ ユネスコスクールの理念に賛同し、福祉・環境・国際等の分野で活躍したい生徒</p>

3 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談・特別活動		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・「本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」について生徒は79.0%の支持をしている。(昨年度より1.9%上昇) 対して保護者は62.3%と支持が低め(昨年度より2.6%上昇)であるため、いじめ対応について保護者への共有を密に行う必要がある。</p> <p>・「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い。」について生徒から78.9%の高い支持を得ている。「学校は、個々の生徒の相談に丁寧に対応している。」について保護者から74.2%の支持を得ている。</p> <p>・学校行事分野「本校では、ボランティア活動の大切さを教える同時にその機会を提供している。」について生徒は79.7%の支持をしている。対して保護者は70.8%と評価が下がるが、昨年度よりは5.1%上昇しているため、生徒の意識が高まり家庭で共有されていると考えられる。</p>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の自己指導能力・規範意識を向上させることで安心安全な環境を整備し、挑戦を核とした学校文化を醸成します。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	生徒部会、企画委員会、各学年会、職員会議、各種委員会などを通じて、全職員の共通理解を図る。 生徒指導委員会、特活指導委員会、学校保健安全委員会、人権教育委員会、性教育委員会、特別支援教育員会、防災管理委員会、いじめ防止等対策検討会議		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>(1) 全職員による遅刻防止、身だしなみ、交通安全、情報モラル指導等の生活指導を充実し、自律心を身に付けさせる。</p> <p>(2) 専門家の助言を活用するなど、不登校傾向の生徒に寄り添った教育相談を充実させ、チームで丁寧な対応にあたる。</p> <p>(3) 生徒会やMSリーダーズ、ボランティア部を中心に地域と協働し、ボランティア活動を通して生徒の意識と行動の変容を図る。</p>	<p>(1) 遅刻数、問題行動件数、いじめ認知件数の増減</p> <p>(2) 長期欠席生徒数の増減、相談室利用件数の増減</p> <p>(3) MSリーダーズ等のボランティア活動状況及び生徒の意識・行動変容に関する調査</p>		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<p>・生徒指導担当者、副担任を中心として、全職員が登校時に挨拶・遅刻指導を実施した。遅刻の回数を重ねる生徒に適宜指導を行った。 4月から12月までの遅刻数 313回 〔R3年4月～12月 267回※夏休み明けにコロナ対応の登校停止期間があった。〕</p> <p>・問題行動の未然防止、早期対応の徹底のために学年会の協力のもと校内巡視、クラスへの連絡、該当生徒への指導等を行った。 問題行動7件〔R3度：6件〕 いじめの認知7件（内アンケート誤入力1件） いじめ該当事案3件〔R3度：1件〕</p> <p>・教育相談、i-check、迷惑調査を通して、気になる生徒や問題を抱えた生徒に早期対応し情報共有した。スクールカウンセラーに繋ぐ必要があると判断した場合は速やかにスクールカウンセリング（スペシャリストサポート事業を含む）を行い、適切なケアをした。 長期欠席生徒数 5名〔R3度：6名〕 相談室利用 42件 23人（R4.1.16現在） 〔R3度：56件 26人〕</p> <p>・昨年度はコロナの影響で中止となっていたボランティア活動も再開され、MSリーダーズやボランティア部の生徒を中心に活発に活動を行った。 池野駅清掃活動 3回 計55名 池田町街頭啓発活動 2回 計32名 いびがわマラソン2022 23名 他多数</p>	<p>① 遅刻数、問題行動件数、いじめ認知件数が減少したか</p> <p>② 長期欠席生徒数、相談室利用件数が減少したか。</p> <p>③ MSリーダーズ等のボランティア活動がさかんに行われたか。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p>
<p>12 成果 課題</p>	<p>○欠席傾向の生徒には保護者への連絡や二者面談、三者面談を早期に行うことで長期欠席生徒数を減少させることができた。</p> <p>・ ○いじめの件数は増えたが、生徒の訴えを適切に拾えたということもできる。早期にチームでの対応を行い、解決へと繋げることができている。また、人間関係の観察を丁寧に行い、解消に向けて見守りを適切に行っている。</p> <p>▲情報モラル違反や校内携帯電話規定の違反は、ここ数年間の情報モラル教育の成果により減少している。しかし、小テスト及び考査時の不正行為が増え問題行動の数は増えてしまった。不正行為を防止するノウハウを職員で共有し徹底して実施することが必要である。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <p>20日以上欠席するという長期欠席の生徒の8割が1年生であるため、新入生ガイダンスを細やかに 行い新しい集団生活や高校生活への不安感を取り除くことが求められている。また、キャリアおける 自己実現について考える機会を積極的に与えていかなければならない。人間関係や家族関係、進路に ついての悩みなどを気軽に相談できるよう教育相談を充実させていくと同時に、生徒同士が相談出来 る仲間作りをHRや部を基盤にして行う雰囲気づくりを生徒会を中心に醸成していく。生徒会が積極 的に啓発活動を行うことを支援していく。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月25日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動に学校を上げて積極的に参加し、地域にも貢献している。 ・校則の見直しについては、生徒たちが主体的に行えるよう支援してもらいたい。 ・二者面談や三者面談を積極的に行っていることが評価できる。生徒理解や教育活動向上に繋がるため、今後も継続して行ってほしい。 ・いじめについて、よく把握し丁寧に対応している。子どもたちが安心して学校生活を送れる。
